

# 第3回大阪府立貝塚南高等学校 学校協議会議事録

NO.1

日時：平成29年2月21日（火）

15:30～17:00

場所：大阪府立貝塚南高等学校 会議室

出席委員・事務局（敬称略、順不同）

吉川 測雄 氏

岸田 米夫 氏

新田 佐智子 氏

中嶋 やよい 氏

南 芳治 氏

欠席委員

井出 博 氏

谷口 浩也・中原 浩育・市原 喜与治・川上 良介・水落 宏・  
山城 正・谷井 重木・川寄 美佐子・井出 康子・鈴木 一也・  
岡崎 知佳子・村田 晴紀・増田 菜実

## 1 学校長挨拶

## 2 委員・事務局員の紹介

## 3 会長挨拶

## 4 報告

○平成28年度学校経営計画及び学校評価について

平成28年度学校経営計画を元に学校教育自己診断の結果および分析、自己評価について説明

○各学年より1年の取り組みについて報告

○広報活動について報告

○平成29年度学校経営計画及び学校評価（案）

平成29年度学校経営計画を元にめざす学校像、中期的目標、来年度の取り組み内容等について説明

## 5 協議事項

**協**「家庭への連絡と意思疎通」について、保護者との懇談についてはどのように行っているか。

A. 1学期中間考査後に生徒、保護者、担任の3者懇談を全員行い、

11月には成績不振者、希望者を対象として行っている。

**協**メール配信の登録状況はどうか。今後の活用を期待する。

A. 1年生で200件程度。1学期の懇談時に保護者に案内をした。今後も保護者に案内文を配布し登録者を増やし、活用していきたい。

**協**クラブ活動加入率の上昇、クラブの活性化に向けてどう考えているか。

A. 部活動紹介や体験入部などを通じて加入が増えるように努力しているが、クラブに入らずアルバイトをしている生徒が多い。経済的にアルバイトの必要性のある生徒もいるが、なるべくクラブに入るよう指導していきたい。

協 保護者向け学校教育自己診断の結果より、保護者に対してより情報を発信していく必要がある。

A. 現在も学年だより、進路だよりなど、文書を通じて学校の取り組みを発信しているが、生徒が保護者に渡していないこともあるようだ。メール配信も活用するなどし、保護者に情報が伝わるよう工夫していきたい。また、PTA総会、保護者向けの進路説明会や懇談など保護者が学校に来る機会を通じて、学校の取り組みを伝えていきたい。

協 入学希望者の状況についてどう感じているか。貝塚南ならではの特色はなにか。どうしたらよくなるか。

A. 貝南の特徴としては、いろいろな進路に対応していることが挙げられる。クラブについては、今年度男子ソフトテニス部が近畿大会に出場したが、継続して結果を出せているクラブはない。

立地条件、通いやすさで選ぶことが多いため不利であるが、学校行事やクラブ活動など生徒が生き生きとする機会を作ると共に、放課後などに実施している補習や講習を充実させる、生徒が相談しやすい雰囲気を作っていくなど、面倒見のいい学校にしていき、それを広報活動などで、中学生や保護者に浸透させていきたい。

協 公立高校の施設設備について、トップ校は充実しており、立て替えも済んでいる。

A. 中堅校は厳しい状況であるが、学校経営推進費（学校が教育目標を達成するために事業計画を提案し支援が受けられる府の事業）の申請を出すなど、予算獲得に向けて努力したい。

協 学校の宣伝にもう一工夫がほしい。地元の情報誌に載せるなどはどうか。

A. 今後検討したい。

協 卒業人数を見たが、入学時より減っている。

A. 41期生は定員割れをしたため、入学後学校生活に適應できない生徒がいた。学力が厳しいながらも努力し、卒業した生徒も多くいる。しかし、さまざまな指導を通じて、進級、卒業に向けてサポートを行ったが、残念ながら退学してしまった生徒がいた。

協 体育大会について、体育祭ではないのはなぜか。

A. 文化祭と日程が近く、地域の祭礼もあることから、生徒の気持ちの切り替えが難しいと考え、本校では体育祭とせず、体育の授業の一環としての体育大会として行っている。ただし、生徒の声を聞き、種目を変化させるなどして楽しめるよう工夫している。

協 クラブの加入率について、生徒はアルバイトに流れがちである。

ダンス部等自分のやりたいクラブがあれば入っていたという生徒もあるのではないかと。

A. 存在しないクラブについては、同好会から始めることはできる。

過去に、ダンス部などを作ろうとした生徒もいたが、部の成立までには至らなかった。

協 修学旅行は生徒たちにとって大きなイベントである。貝南としての方向性があった方がいいのではないかと。前年と違うとショックもある。

A. 現在修学旅行委員会で複数年に渡り、目的・時期・場所を固定する方向で、海外も含めて生徒たちにとって充実したものとなるように、検討をおこなっている。